

研究の背景・目的

中山間地域で就農を希望する人の中では有機農業への関心は高く、農林大学校ではH25年度から有機農業専攻が設置され、多くの学生が就農に向け有機農業を学んでいます。しかし、「有機農業経営」として確立するには栽培技術が未確立だったり、販路が不安定だったりと多くの課題があります。

そこで、本研究は安心して有機農業に取り組めるよう「有機農業経営モデル」を作成することを目的として、特に施設野菜や露地野菜の有機栽培技術の確立を目指してします。

研究方法

- ①夏秋トマト栽培では、リビングマルチ（主作物の生育期間中、地表面にクローバー等別の植物を繁茂させる栽培方法。特に天敵増殖効果が期待されます）が害虫抑制や収量に及ぼす効果を検証しました。
- ②露地ナス栽培では、ネット栽培が収量や害虫抑制に及ぼす影響を調査しました。
- ③夏秋キャベツ栽培では、トンネルネットとマルチの有無が収量や害虫抑制に及ぼす影響を調査しました。

※栽培方法：各対象品目の栽培管理は、発酵鶏糞や菜種油粕などの有機質肥料と有機JAS対応の農薬のみを用いて行いました。

研究状況

- ①リビングマルチを利用することで、コナジラミ類等の害虫発生密度を抑えることができ、収量も白黒マルチを使用するより多くなりました（図1）。
- ②ネットの防風効果、害虫抑制効果が確認できました。その他、保温効果もあり、定植期や栽培後期に気温が低くなる中山間地域に有効な技術であると考えられました（図2）。
- ③1mm目合いのトンネルネットによりチョウ目害虫の被害を抑えることができました。また、トンネルネットと黒マルチを組み合わせると肥大効果が高く、約9割がL玉以上となりました（写真1）。

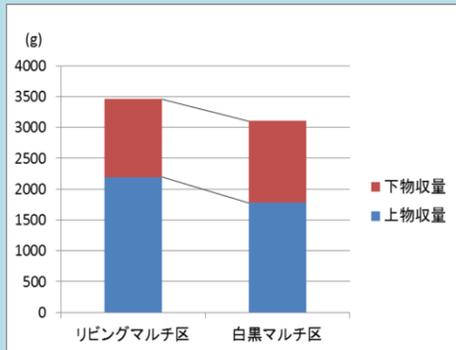


図1: トマト1株当りの上物収量と下物収量

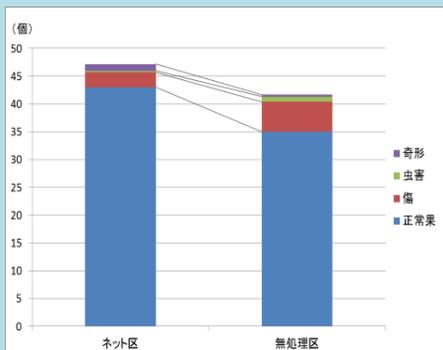


図2: ナス1株当りの上物果数と下物果数



写真1: キャベツ ネット+マルチ区の結球部

研究成果の活用・今後の研究計画

- ①中山間地域に適合した新たな品目の検討や品種の絞り込みを実施します。
- ②果菜類に適した育苗培土、ぼかし肥の開発を検討します。
- ③関係機関と連携し、経済性調査や販売面支援を実施します。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当グループ： 資源環境科

研究担当者： 山根 渉

問い合わせ先： 0854-76-3817

E-mail： chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名： 野菜の有機栽培技術の確立（研究期間： H25～29）

